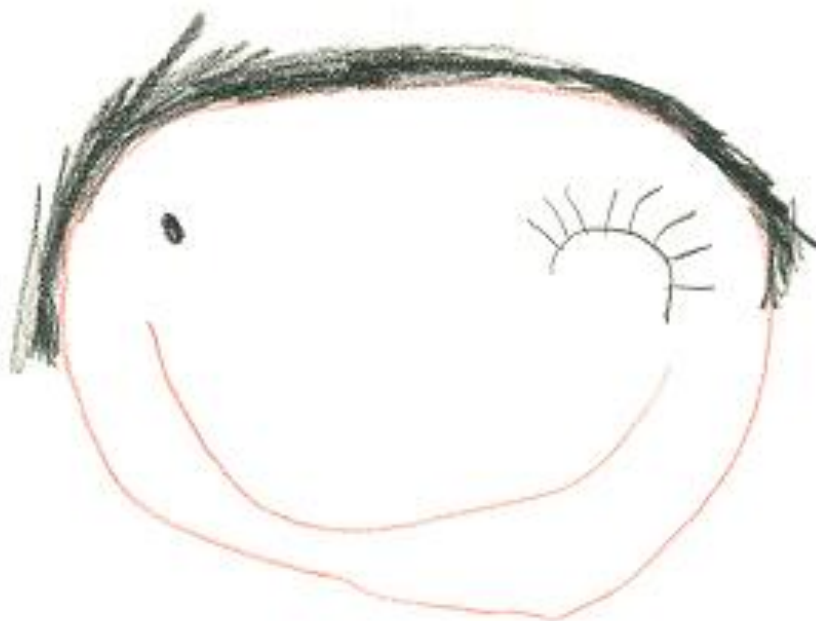


あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1階
TEL：052-954-6722
FAX：052-954-6993
開館：月～金 10～17時



ペンネーム あいちゃん 4歳

＜表紙に掲載する子どもの描いた絵を募集しています＞

あおぞらの表紙の絵を描いてみませんか？興味があればご連絡ください。

①絵のタイトル ②絵の説明（30字程度）③掲載するお名前 ④学年（年齢）⑤保護者の方の連絡先（氏名・メールアドレスまたは電話番号）を明記のうえ、メールまたはFAXにてお送りください。

＜編集委員募集のお知らせ＞

月に一度発行している「あおぞら」は、愛知県被災者支援センターのスタッフとボランティアの方がたで協力をして発行しています。あなたも編集委員になってみませんか？

＜発送作業のボランティア募集＞

定期便発送作業のボランティアに参加してみませんか？

2月10日便の予定			2月25日便の予定			お問合せ・お申込み
封入作業	2月8日（水）	午後	封入作業	2月22日（水）	午後	愛知県被災者支援センター TEL：052-954-6722（渡邊）
発送作業	2月9日（木）	午前	発送作業	2月23日（木）	午前	

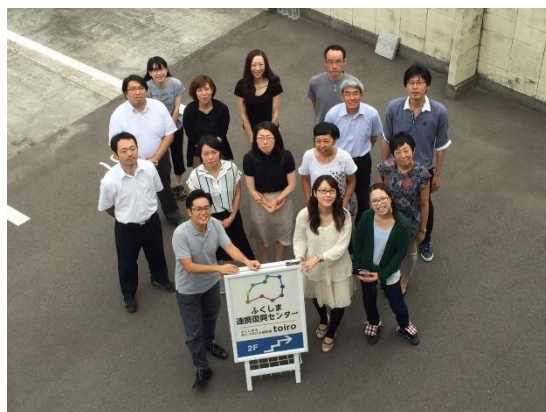
支援団体紹介（ふくしま連携復興センター）

私たちは2011年7月に、福島県内のNPOなどの市民活動団体を中心に、行政や企業とのネットワークを形成し、情報共有の場作り・協働推進などを目的とする中間支援組織として発足しました。震災直後は、福島県内の避難者支援、復旧・復興の後方支援の他に、福島県内から県外へ避難される方への情報提供や相談対応も実施いたしました。

2014年からは、県外避難者向けの相談窓口「ふくしまの今とつながる相談室 toiro」を開設し、電話での相談対応や、県外避難者交流会などへの人材派遣（福島の復興状況などの情報を伝える方、避難生活よりお戻りになられた方など）も行っております。



<交流会の様子>



<ふくしま連携復興センター職員>

今年度は福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業を福島県より受託し、全国各地の避難者支援団体の皆様とネットワークを結んで、北海道から沖縄まで全24個所に生活再建支援拠点を設置、各地での相談対応・交流会開催のサポートを行っております。愛知県被災者支援センターともこの事業を通して連携し、愛知県内で開催される交流会などに参加させていただき、愛知県内の避難者の方々とふるさと福島とのつながりをつくっていきたいと思っております。

ふるさと福島の情報が欲しいという方は、ぜひお気軽に「ふくしまの今とつながる相談室 toiro」をご活用ください。これまでに、こんなご相談に対応しております。

- ・避難前に住んでいた地域の現在の様子を知りたい。
- ・避難先で日常生活の相談に乗ってくれるところを探している。
- ・県外避難から福島に戻ったママたちの話を聞きたい。
- ・県外の避難者交流会で福島県内の現状をお話してくれる人物を紹介して欲しい。

などなど…相談、派遣依頼問わずお気軽にお問合せください。

電話 024-573-2731（月・水・金 10:00～17:00）

ホームページアドレス <http://f-renpuku.org/toiro>

QRコード →



交流会①（飛島村交流会）

第1部「災害を語り継ぐ会」・第2部「リレートーク&冬休みお楽しみ会」

「本年度の交流会は何がいいだろうか？」と皆で話し合ったところ、本村も東南海地震から70年、伊勢湾台風から57年、また東日本大震災から5年が経ち、その経験を防災に活かさないかという話になりました。そこで、お互いの被災証言や体験を聞く交流会を行うこととなりました。

交流会では、久野村長から「例年皆さんにお届けしてきたお米を、今年は大きな被害のあった熊本地震の被災地に贈ることになりました」とご挨拶がありました。会場に展示された伊勢湾台風の被害状況、子どもたちの疎開先の模様などのパネル、東日本大震災の被害状況のパネルから、改めて大自然の猛威に対して人間はなすすべがないことを思いました。

まず、東南海地震と伊勢湾台風を経験した飛島村の佐野章光さんにお話していただきました。東南海地震当時は6歳、伊勢湾台風は20歳でした。また同じく飛島村の塚松和枝さんは、中学1年生で伊勢湾台風を経験しました。お二人共、一瞬の判断が生死を大きく左右するということをお話してくださいました。そして想像したことのない出来事に遭遇すると、何十年経っても当時のことをそのまま覚えているものだと、どんな状況にあっても「生きるんだ」と希望を持って頑張ってきたと、力強くお話しくださいました。

3人目は宮城県の西村淳一さんです。娘さんがいらっしゃる愛知県に避難をと、右も左も分からない土地での生活を始められました。実家のこと、お寺の後処理など大きな決断をされたことには、大変なご苦労を思いました。次に福島県の伊藤廣昭さんからお話いただきました。原発関連で働いていらっしゃり、南相馬市で被災されました。放射能の影響の怖さ、まだまだ



＜第2部のカフェでの様子＞

私たちの知らない現実、状況認識への甘さを知らされました。そして、「今の状況では可愛い子や孫を育てられない」とお話しされました。私たちは、いろいろなどころでお話を聴いたり、テレビや新聞で少しは理解していると思っていましたが、現実、被災した方たちのお話を聞き、「何も知ってはいなかった。もっとしっかりと耳を傾けていきたい！」と思いました。

あっという間に第1部が終了。第2部は待ちに待った「リレートーク&冬休みお楽しみ会」です。会場は、宮城県の職場が津波に会い、福島県の実家は放射能で被災された方がご主人と一緒に飛島村で開いていらっしゃる素敵なカフェです。当日は定休日でしたが、この交流会に賛同し、貸切りで、バイキング形式の食事を準備してくださいました。心のこもったご馳走を十二分にいただきました。

その後、一人ずつリレートークで、被災体験や今の生活等を話し、来たる災害に活かそうと話し合いました。最後はビンゴゲームで楽しみました。景品には飛島産のほうれん草や大根、ミカンを準備し、楽しんでいただきました。

こうして皆さんと触れ合う機会をいただき、「どんな時も皆がついているよ！」の心で、これからも「人」を大切に、明るく頑張ります。ありがとうございました。

（飛島村交流会実行委員 橋本千草）

交流会②（あま市絵手紙贈呈の会）

あま市絵手紙贈呈の会が、12月9日（金）に行なわれました。平成25年からスタートした心の支援活動は、「あま市」の小・中学校全17校の生徒が、寒中見舞いの絵手紙を書いてくれました。今年は3,456枚集まり、被災者代表に手渡されました。会に参加してくれた生徒の感想をご紹介します。



6年前の3月11日、東日本大震災が起きました。そのとき私は、幼稚園の年長クラスにいました。6年前のことなので、私は少ししか覚えていません。けれど、とても怖かったことはしっかりと覚えています。今でもテレビを見ると、その時のことを思い出します。そして、そのたびにとても衝撃を受けています。

私は、被災者の方々に絵手紙を渡すと聞いたとき、本当に喜んでいただけるのか不安でした。しかし、「愛知県に避難されている方に寒中見舞いの絵手紙を送ろう！」の会で被災者の方々の話を聞いていたら、小さなことだからこそ思いが詰まっていること、誰にでもできそうで、できないことだからこそ、自分たちの思いが被災者の方々に届き、喜んでいただけていることがわかりました。自分の描いた一枚の絵手紙で、何人もの方が勇気もらったと感じてくださり、元気づけられているのだと思うと、絵手紙の一枚一枚が、とても大切なものだと思います。

被災者の方々は、慣れない場所での避難生活で最初は不安なことばかりだったと思います。けれど、たくさんの人たちと支え合い、協力し合って、さまざまな困難を乗り越えてみえたことと思います。私は、そんな皆さんが困難を乗り越え、被災地の復興に向けて前進していけるよう、これからも応援します。

（あま市立七宝小学校 西 姫奈）

今でも忘れられません。6年前の3月11日、東日本大震災が起きました。そのとき僕は小学校2年生でした。テレビに次々と映し出される東日本の姿に、僕はひどく衝撃を受けました。遠く離れた、ここあま市に住む僕たちにできることは、愛知県に避難されている方々に絵手紙を届けるという小さなことだけなのかもしれません。でも、だからこそ、命の尊さを思いながら、祈りを込めて絵手紙を描きました。

絵手紙を被災者の方々にお渡ししたとき、ある方に「この絵手紙は、私たち被災者がどんな絵なら喜ぶだろうか、温かい気持ちになれるだろうか、一生懸命考えて描いてくれたのだと思うと、本当にうれしくなります。もらった絵手紙は、部屋に飾ったり携帯電話の中に残したりしているんですよ」とお聞きしました。僕たちの絵手紙が、被災者の方々に喜んでいただけていることを知り、この取り組みのすばらしさを改めて感じました。

震災から、まもなく6年という月日が経ちます。しかし、僕たちのこの取り組みが続いている限り、真の復興が成し遂げられたとは言えないでしょう。今なお、困難な生活をされている方々に、少しでも笑顔で穏やかに過ごしていただけるよう、この取り組みが終わるその日まで、僕たちができることを考え、行動していきます。

（あま市立七宝中学校 小野原 舜）

生きぬく力をつけて欲しい

息子7歳の誕生日の11月22日、いわき市の東北東60kmを震源とする震度5弱の地震がありました。名取市の親友と「震度の割に津波予想が出ているね」「小学校は自宅待機になっているよ」と、特に重く感じず連絡を取り合いました。しかし、なかなか津波注意報が止まずソワソワしてきました。

震災直後から友人に聞いた地震経験者の「みゆきち」さんや「かず」さんなどのブログを1日に何度もチェック。「また来るのではないか？」との不安を少しでも取り除けるよう、薫にもすがる思いでした。

愛知に来てからは気象庁の地震と放射線量は調べなくなり、見続けていたたくさんさんのブログは誹謗中傷に耐え切れず閉鎖されていきました。

2016年の11月上旬、近所の小学6年生の男の子が「11月23日に大地震と、津波が140m来るって学校で噂になっていて怖い」と不安な顔をしていました。彼に信じるなど言うより、もしそうなったらどうするのかを考える方が有効だと言いました。

そこで、東日本大震災のときは、その日のうちに自衛隊が助けに来てくれたこと、生協がパンを持ってきてくれたこと、2日後には給水車も来てくれたことなど、事実を話しました。

私は断水を経験したので、揺れが収まったら、いの一に風呂に水を貯めたいと思います。水は2L×16本の備蓄があり、ゴミ袋45Lは60枚あります。東日本大震災の時は、便器に二重にゴミ袋を敷き、用を足したら外側のビニールの口を縛りベランダへ。その後、また新しいゴミ袋を便器に敷き、大は1回で、小は何回かで交換しました。排泄物は想像を



<濱田農園農作業体験交流会

参加時の脇田さん（右上）>

超える悪臭でした。ありがたいことに、ゴミ収集は毎日来てくれました。そして、揺れただけでは人は死なない。地震を機に起こる津波、火事、他の何かで命を落とします。また、天災以外でも事故や人間関係のこじれなど、自分にふりかかるもの全てから、今、自分がどうすれば生きぬけるか？を考え、行動する力を養うことが一番大切だと思っています。

私には小学3年生・1年生、年中の3人の子どもがいます。一人ひとりに考えられる全ての状況下で、その時どうするのがいいか話しています。例えば、集団登校の集合場所なら、公園内でみんなで集まり頭を守ってママを待つ。必ず迎えに行くからと。想定外の事が起こったら、まず落ち着く、そして、命が助かるにはどうしたらいいかだけを考えて行動して良い。逃げた先では人が集まっている所にいるように。そういう心構えやシミュレーションは、いざという時に役立ちます。特に子どもは話すと怖がりますが、何度も話すうちに耳を傾けるようになりました。こういう話を家族だけでなく、他の方とも話したいと思っています。

(避難元茨城県つくば市 脇田まゆみ)

スタッフ紹介 ～ 塗師千賀子 ～

支援センターのスタッフになった経緯や今の思いを紹介していきます。
第20回はスタッフの塗師千賀子（レスキューストックヤード事務局スタッフ）です。

昨年の12月で、レスキューストックヤードに勤め始めて、丸3年になりました。支援センターで皆さんとお顔を合わせるような仕事はしていませんが、会計という仕事を通して、サポートさせていただいています。

東日本大震災が起きてから、5年以上が過ぎ、まだまだ復興が進んでいない地域があるにも関わらず、みんなの関心が少しずつ薄れてきたことに心を痛めています。3月11日という日を特別な日として位置付け、その日だけ思い出すということではなく、毎日の生活の中で自分の身近な人を思いやり、寄り添うということを大切にしていきたいと思っています。みんなの笑顔のために、自分にできる小さなことを少しずつ積み重ねていきたいです。



支援センターからのお知らせ

<編集後記>

- ★この時季には鍋物が！そこで七味ならぬ六味で調味しました。みかん、ゆず、唐辛子、白ごま、黒ごま、青のり、山椒…七味になっていました。ふわりとゆずの香りが効いて豊かな気持ちになります。簡単にできます。お試しを！（H.I）
- ★住宅関係で急がれている方に支援センターではお手伝いをしています。お気軽にお問い合わせください。（H.T）
- ★震災から間もなく6年。お陰さまで無事に新年を迎えることができます。地球上の皆さまが笑顔でいられますように！（E.K）
- ★名古屋城検定初級を取りました。近くにあってもなかなか行かないけど、名古屋の歴史を知るいい機会になりました。（J.I）
- ★雪や花や豆や鬼が歌われる、東北の手遊びやわらべ歌がなつかしいです。（T.N）
- ★飛島村の交流会に親子で参加しました。もう今では飛島村でのイベントには、親戚の集まりに参加する感覚です。それだけ長く支援していただいているし、避難者、センターの方々とも深いつながりなのだと感じました。新年も宝物の1年にしたいです。皆さまにとっても、新年が素晴らしい年になりますように。（Y.Y）
- ★年末年始にかけて、其処彼処に新しいカレンダーが掛けられる。真新しいカレンダーに期待や希望を込めながら、新年を思う。（K.T）
- ★新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく願い申し上げます。お正月に東北へ帰省せず名古屋で初詣に近くの神社で手を合わせました。身内の話によると会津坂下町の伊佐須美神社は2時間並んで参拝するほどだったそうです。（Y.S）

あおぞらに関する
ご意見ご感想はこちら

〒460-0001 名古屋市中区三の丸3-2-1 愛知県東大手庁舎1階
愛知県被災者支援センター
TEL: 052-954-6722 FAX: 052-954-6993 Mail: aozora@aichi-shien.net

